

キコニアレター

2023.3.1発行 No.32

復活した繁殖地 小浜市国富地区の取り組み（福井県小浜市）



コウノトリの郷づくり推進会
MIYATANI Kazuo
副会長 宮谷 和夫

令和3年5月に小浜市で57年ぶりとなるヒナが誕生

小浜市国富地区では、59年前（昭和39年）の「国内で最後にコウノトリのヒナが誕生した場所」としての歴史をもとに、コウノトリをシンボルとした郷づくりに取り組んでいます。

10数年前から、コウノトリが頻繁に飛来してくるようになったため、地元有志で「コウノトリの郷づくり推進会」（以下「コウの会」）を設立し、現在も、自然環境の保全活動や地元小学校を対象とした環境学習に取り組んでいます。

令和2年10月に、地元「国富の郷づくり協議会」と連携して、地区内に2基目の人工巣塔（国富地区2号巣塔）を設置したところ、令和3年5月10日に57年ぶりのヒナ誕生が確認されました。地元新聞の第一面にトップニュースとして掲載されたこともあり、多くの方から喜びやお祝いの声が「コウの会」に寄せられたところです。特に、当時（50数年前）、地元国富小学校でコウノトリの観察をしていたコウノトリ倶楽部の関係者も、大変喜んでくださいました。

令和3年に3羽のヒナを育てた「誠とはるか」のペアは、昨年の令和4年も同じ巣塔で2年連続となる4羽のヒナを育て、無事巣立せました。

これまでの取り組み

「コウの会」では、平成23年の設立以来10年余にわたり、自然環境の保全活動としてビオトープをはじめ、水田魚道や退避溝の整備等を継続しており、冬水田んぼの学習会も実施しています。また、地区内で、コウノトリの飛来が多い場所への、3基目の人工巣塔（国富地区3号巣塔）の設置に協力しました。

さらに、自然環境学習として、国富小学校と連携した生き物調査や環境教室の実施をはじめ、越前市や豊岡市を訪れて外来種の駆除作業の体験や訪問先の小学生との交流会を行いました。国富小学校ではそのような活動を取りまとめ、平成30年度の全国野生生物保護実績発表大会において「コウノトリが舞うふるさと国富をめざして」をタイトルとして発表し、見事最高賞の環境大臣賞を受賞しています。

令和3年には、地元中学校に進学したメンバーがコウノトリLINEスタンプを発売し、売り上げを環境保全活動に役立ててほしいと、「コウの会」に全額を寄付してくれました。

これからの取り組み

「コウの会」では、毎年飛来する多くのコウノトリや、「誠とはるか」ペアが継続して産卵し子育てできるよう、飛来場所や巣塔周辺に新たなビオトープの整備を計画している他、餌となる田んぼの生き物が増えるよう、更なる冬水田んぼ等の普及を図るため、勉強会の実施を考えています。

また、新たに生まれるヒナや飛来するコウノトリが安心して住めるよう、「見守り隊（仮称）」を結成し、地域のシンボルとして守り育てていきたいと考えています。

これまでに、7羽のヒナが巣立ちしましたが、今後も継続して小浜生まれのコウノトリが育ち、全国の空を雄大に舞う事を祈るばかりです。



メス親 J0196（愛称：はるか）が幼鳥4羽に餌を吐き戻す様子（令和4年6月）



地元の中学生が作成したLINEスタンプ



地元小学生を対象に退避溝での環境学習を実施（令和3年6月）

【写真提供：コウノトリの郷づくり推進会】

コウノトリの個体数（2023.1.31 時点）

飼育

施設・拠点名	オス	メス	不明	計
兵庫県立コウノトリの郷公園	30	28	0	58
附属飼育施設コウノトリ保護増殖センター	15	18	0	33
養父市伊佐拠点	0	0	0	0
計	45	46	0	91

野外

カテゴリー	オス	メス	不明	計
兵庫県放鳥	17	15	0	32
兵庫県野外巣立ち	67	86	0	153
野生個体	0	1	0	1
他府県放鳥	11	6	0	17
他府県野外巣立ち等	48	52	0	100
計	143	160	0	303

天然のアスファルトに埋もれた 「コウノトリ」*1

今や300羽を超えるコウノトリが日本の空を飛んでいます。明治時代には豊岡盆地をはじめ、わが国には多くのコウノトリが生息していたことは、皆さんご存じのとおりです。その前の江戸時代にはどうだったのでしょうか。コウノトリが市中で繁殖していたとする記録があったり城下町のゴミ捨て場跡から骨が見つかったりすることから考えると、コウノトリが各地の空を舞っていたことでしょう。それでは、江戸時代より前はどうだったのでしょうか。鶴（コウノトリ）という漢字が日本に入ってきていることから、中世より前に日本列島でコウノトリが生息していたことは想像できますが、具体的な生息記録は知られていません。今後、なんらかの古記録が発見されるのを待つしかないのでしょうか。

2011年、コウノトリと考えられる鳥の足跡が、大阪府東大阪市・八尾市の弥生時代の水田跡から見つかりました。生物が昔に生活していた痕跡は生痕化石*2と呼ばれます。足跡も生痕化石です。過去にある生物がその地域に暮らしていたかどうか知る手がかりとして、化石は大変重要です。

ところ変わって、秋田県潟上市の豊川地区、今はのどかな田園地帯ですが昭和時代には油田だった場所です。この地区には草生土という地名があり、「くそうど」と読みます。これは悪臭が強い土、つまり天然のアスファルトを意味していると考えられます。豊川地区では地下から原油が染み出し、気体成分が蒸発したあとに、粘り気が極めて強い天然アスファルトの沼（ピッチ湖）がかつてはあったようです。みなさんは沼地の泥に足を取られて動けなくなったコウノトリの話聞いたことはありませんか？ ここ、豊川の底なし沼のようなアスファルトの上にコウノトリが運悪く降り立ってしまうと、二度と飛べなくなってしまうかもしれません。

秋田県の博物館*3には、天然アスファルトの地層から発見されたコウノトリ属の鳥類化石*1があります（写真参照）。この地層の時代は正確にはわかっていませんが、先史時代のものであることは間違いありま



兵庫県立コウノトリの郷公園
ジオ研究部長

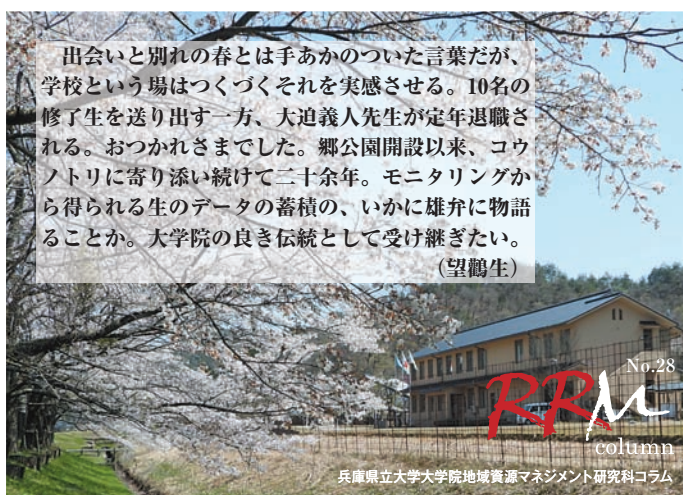
KAWAMURA Norihito
川村 教一

せん。そもそも、空を飛ぶ鳥類は、体が地層に埋もれて化石になることが極めてまれです。コウノトリ科の鳥類の骨は、江戸時代より前では、福島県、富山県ほかの縄文や弥生時代遺跡から見つっていますが、潟上市の例のように自然死と推測される化石は貴重な例です。今後、科学技術が進み、コウノトリの痕跡を地層から見出すことができるようになるかもしれません。太古の日本列島の天空をコウノトリが舞っていたことを、いつかみなさまにお話しできる日が来ることを望んでいます。



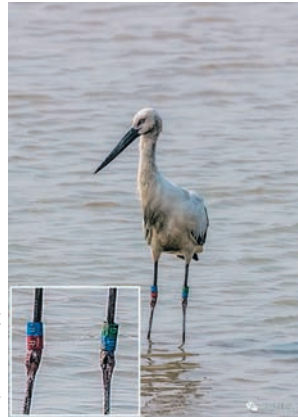
コウノトリ属の鳥の化石（長さ約14cm）
秋田大学鉱業博物館*3標本

- *1 コウノトリ属の鳥（*Ciconia* sp.）で、コウノトリ（*Ciconia boyciana*）かどうかは不明です。
- *2 生物の体や生活の痕跡は、それが見つかった地層が固化していない場合でも「化石」ということがあります。遺跡から見つかった生物の体は「遺骸」と呼ばれることが多いようです。
- *3 秋田大学国際資源学部附属鉱業博物館



全国へ そして世界へ

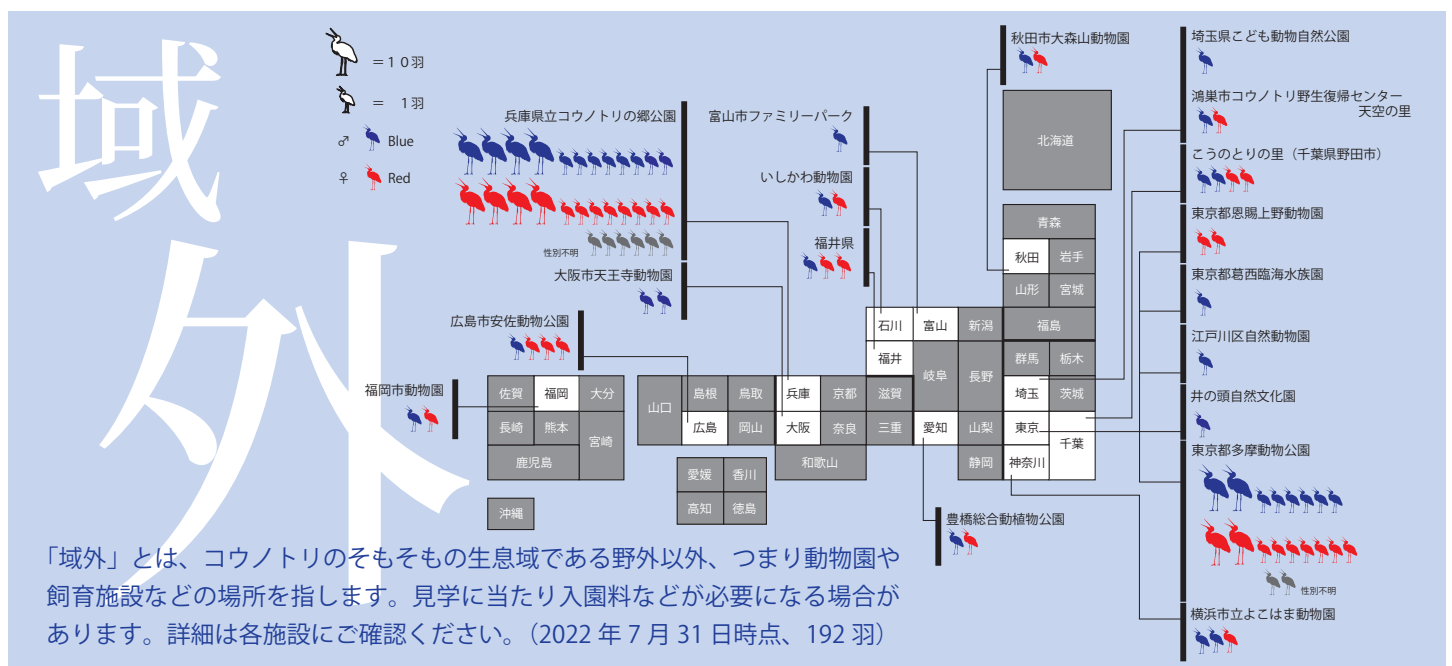
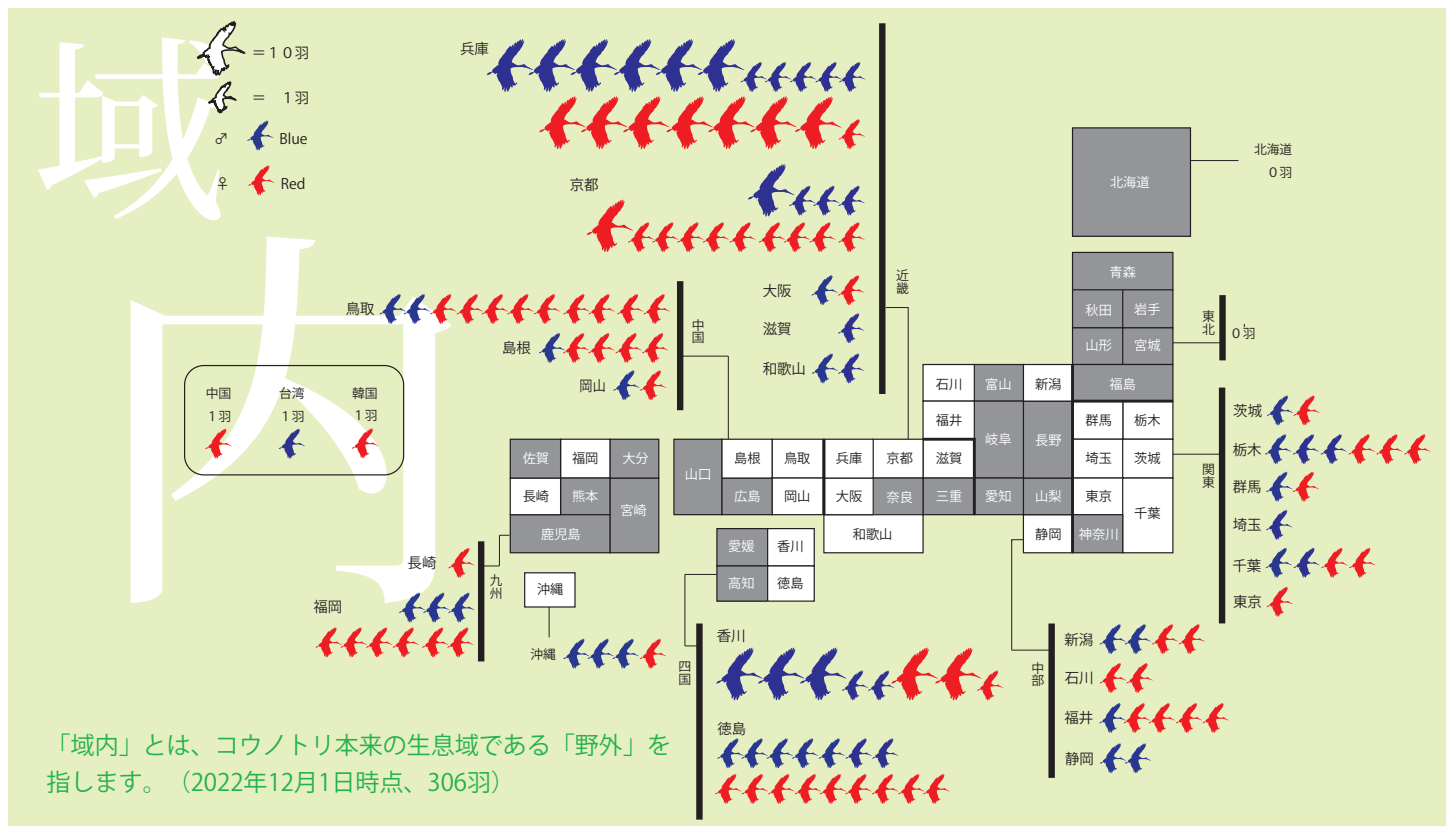
大空を舞うコウノトリの数は、300羽を超えました。その中には、今年巣立ち、海を越えて台湾や中国へ渡った個体もあり、生息域を拡大しています。今回は野外コウノトリの分布とコウノトリを飼育する施設を紹介します。



中国浙江省へ飛来した個体
J0448メス
R4.6.21福井県越前市を巣立つ
写真提供：浙江野鳥会



台湾雲林県へ飛来した個体
J0504オス
R4.8.5石川県志賀町を巣立つ
写真提供：台湾野鳥保育協会



各種イベントを実施しました

郷公園デー 非公開エリア特別公開 10/29(土)～30(日)

普段は非公開となっている飼育ゾーンや治療施設を来園者の皆さまに公開しました。園内を回りながらスタンプを集める「郷公園スタンプラリー」や、コウノトリの治療室と手術室を公開し、獣医師がコウノトリの健康管理について解説する「コウノトリの診療所」、飼育員が飼育ゾーンを案内しながら解説を行う「コウノトリ野生復帰の舞台裏」、附属施設の保護増殖センターの特別公開などを実施しました。



新春記念缶バッジの配布 1/7(土)

2023年新春記念として、ご来園の先着150名様へ記念缶バッジをプレゼントしました。



環境学習（オンライン講座・講話・ガイド）

コウノトリの野生復帰や自然との共生について、園内での講話やガイド、オンライン講座を実施しました。今年も多くのご学校や団体にご利用いただきました。詳しくは郷公園HPの「普及啓発環境教育」をご覧ください。



ふるさとひょうご寄附金 コウノトリ野生復帰プロジェクトを応援してください

コウノトリの郷公園では、全国の皆さまのご協力を得ながらコウノトリの保護増殖と野生復帰に取り組んできました。しかし、まだ道半ばの状態にあり、特に昨今では飛来地や繁殖地が全国的に拡大したことで、当園の技術的支援の必要性が高まっています。また、野外コウノトリの増加に伴い、救護個体の増加や近親婚の発生など新たな課題への対応や、遺伝的な多様性確保のための国内外の施設とのさらなる連携が重要となっています。

これらの取組を進めていくためにも本プロジェクトへのご賛同・ご支援をお願いいたします。詳しい内容は、当園HPに掲載しています。



申込
方法

1. ふるさと納税サイト
「ふるさとチョイス」
による申込み

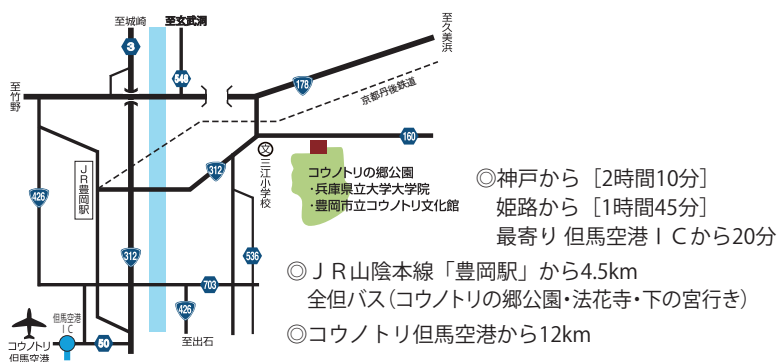


2. 寄附申出書
による申込み



ご不明な点がございましたら、当園までお気軽にお問い合わせください。

ACCESS!



編集後記

本号「知ろう学ぼう郷公園」のコーナーで、域内・域外コウノトリの分布を掲載しました。

以前発行したキコニアレター(2018年発行 No.14)に同様のコーナーがあり、当時の様子と比較することができました。特に野外で暮らすコウノトリは、当時18府県と韓国で計124羽であったものが、5年を経過した今回は23都府県と海外(韓国、中国、台湾)で計306羽が確認されるまでになりました。このことから、繁殖地の増加とともに、その周辺地域へ活動範囲が拡大し、コウノトリの生息域が全国へ広がりつつあることが見てとれます。今後とも皆さまからの目撃情報をいただきながら野外コウノトリの暮らしを追い、機会をとらえてご報告したいと思います。

(自然解説員 白岩雅之)



兵庫県立コウノトリの郷公園
Hyogo Park of the Oriental White Stork

兵庫県豊岡市祥雲寺128 tel: 0796-23-5666 fax: 0796-23-6538

開園時間: 9:00～17:00
休園日: 毎週月曜日
(休日に当たるときはその翌日)
12月28日～1月4日

e-mail: kounotori@stork.u-hyogo.ac.jp
ホームページ: <https://satokouen.jp/>
facebookページ: <https://www.facebook.com/satokouen/>
インスタグラム: https://www.instagram.com/hyogo_satokouen/



HP

FB

Instagram